

令和 8 年度病害虫発生予察 特殊報第 1 号

令和 8 年 9 月 24 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

1 害虫名 和名：ニラフシダニ

学名：*Aceria* sp.

2 発生作物 ニラ（ヒガンバナ科）

3 発生経過

- 1) 令和 8（2026）年 6 月、県内のニラ栽培圃場において、葉が湾曲する被害が確認された（写真 1）。
- 2) 被害株を確認したところ、フシダニ科のダニが寄生しており（写真 2）、葉身及び葉鞘内部に水疱状の隆起を確認した（写真 3）。
- 3) 被害様相や虫体の形態から令和 6（2024）年に熊本県の特殊報で報告されたダニと同一種であることが疑われたため、法政大学植物医科学センターに同定を依頼した結果、令和 8（2026）年 8 月 7 日に *Aceria* 属のダニであり、他県で発生したものと同一種であると同定された。

4 国内での発生状況

令和 5（2023）年 9 月に栃木県で初めて特殊報が発表され、同年 12 月には高知県、令和 6（2024）年 1 月には熊本県、令和 8（2026）年 2 月には群馬県から特殊報が発表されている。

5 形態及び生態と被害の特徴

1) 形態

成虫は体長約 0.2mm で、白色または淡黄色のうじ虫型である。また卵は白色半透明の球型である（写真 4）。

2) 生態

本種はフシダニ科 *Aceria* 属の既知種とは外部形態や塩基配列が異なる別種であり、生態は不明である。

3) 被害の特徴

本種は葉鞘部や葉の基部での寄生が多く、寄生部では水疱状の隆起が発生する。症状が進行すると、葉が湾曲して奇形化するが、これは奇形の多い葉鞘内部での被害が葉の伸長に伴い上部に進展して発生すると考えられる。

6 防除対策

- 1) 令和8（2026）年9月18日現在、本種に対して登録のある薬剤は「トクチオン乳剤」のみであり、登録内容を確認して使用する。
- 2) 本種の発生を肉眼で確認することは困難であるため、被害株の早期発見に努める。
- 3) 被害株を除去する際は、抜き取った株をビニール袋等に詰め、一定期間密封して腐敗させ、完全に殺虫をしてから処分する。
- 4) 農機具等を介した本種の移動・拡散を防ぐため、発生圃場で作業後の洗浄を徹底する。

（引用・参考文献）

1. 令和5（2023）年9月1日 栃木県農業環境指導センター
令和5（2023）年度病害虫発生予察特殊報第1号
2. 令和5（2023）年12月22日 高知県病害虫防除所
令和5年度病害虫発生予察特殊報第3号
3. 令和6（2024）年1月30日 熊本県病害虫防除所
令和5年度（2023年度）発生予察特殊報第6号
4. 令和8（2026）年2月18日 群馬県農業技術センター（病害虫防除所）
令和7年度 病害虫発生予察特殊報 第3号



写真1 葉が湾曲したニラ被害株



写真2 葉鞘内部に寄生するニラフシダニ



写真3 葉鞘内部に発生した水疱状の隆起



写真4 ニラフシダニ